2021年
新春座談会

市制施行50周年

～裾野市の輝く未来に向かって～

令和３年１月１日で裾野市は市制施行50周年を迎えました。裾野市は、富士山麓の小さな町から、現在は準高地トレーニングを軸としたスポーツツーリズム事業や裾野市みらい都市推進本部を設置し、ウーブン・シティの実現に向けた支援やSDCC構想の推進など、観光・産業分野を中心にさまざまな分野に注力し、全国から注目を集める都市となりました。

これまでの裾野市の記憶に残る活動や出来事などを振り返るとともに、これからの裾野市のまちづくりへの希望やどうしていくべきかを話し合ってもらいました。

※新型コロナウイルス感染症に配慮し実施しています。

座談会参加者（順不同）

●**森川 賢さん**
有限会社森川建築設計事務所代表取締役
市民協働によるまちづくり推進協議会副会長

●**田﨑 佑子さん**
親子のキラキラタイム実行委員会代表

●**山形 千尋さん**
県立裾野高等学校生徒会前期会長
校内有志団体Ring（リング）代表

●**髙村 謙二**
裾野市長

2021　新春座談会

裾野の好きなところ
人の温かさと美味しい水

市長▶今年の１月１日で裾野市は市制施行50周年を迎えました。まずは、裾野市の好きなところや魅力だと感じるところを交えながら、自己紹介をお願いします。

森川▶有限会社森川建築設計事務所代表の森川賢です。裾野市と同じく、50歳になりました。会社を経営しながら、市民協働によるまちづくり推進協議会の副会長を務めています。

市長▶２年前までは会長でしたね。

森川▶はい。協議会に入って10年になります。これまで会長を６年務め、現在は副会長になって２年目です。協議会を通じてたくさんの人と話をする中で感じたことは、皆さんが純粋で温かいということです。お互いを知らなくても少し話をするだけで、すぐに心から打ち解けて仲良くなれます。

そんな皆さんが、笑顔で楽しく交流できるような地域づくりを実践していきたいと思っています。

田﨑▶親子のキラキラタイム実行委員会代表の田﨑佑子です。一昨年はたくさんの人の協力を得て、市民文化センターで大きなイベントを開催することができました。昨年は残念ながらコロナの影響で断念してしまいましたが、今年は開催できることを信じて、企画を考え始めています。

裾野市の魅力は森川さんと同じく、人の温かさだと思います。イベント開催の際は商工会の皆さんが、学校の行事の際は地域の人たちがすぐに手を差し伸べてくれます。本当に感謝してもしきれないぐらい温かみを感じました。

親子のキラキラタイムの様子

山形▶裾野高校３年生で、校内有志団体Ring代表の山形千尋です。

裾野市の魅力は、水が美味しいところだと思います。３歳まで東京に住んでいましたが、水道水を飲もうとしてよく親に叱られていました。裾野に引っ越してきて初めて水道水を飲み、売っている水より美味しいと感じたことを今でも覚えています。このこともあり、裾野の水に興味を持ち、小学生の頃に平山の水源地について調べたことがあります。

最近では、市内の市民活動団体の一員として竹林の整備など、環境保全活動のお手伝いをしています。

市長▶Ringの活動は新聞などに取り上げられましたよね。

山形▶朝日中高生新聞や地域人という雑誌に取り上げてもらいました。Ringは、コロナ禍でも地域との関りを大切にしたいという思いから設立し、10人のメンバーで活動しています。年度当初、地域の皆さんと高校生をつなぐ「地域連携コーディネーター」の人から、市内の独り暮らしのお年寄りの人たちに、電話や手紙を通じて交流しようという提案があったことがきっかけです。この活動を「声のチカラ」プロジェクトと名付け、電話や手紙のやり取りをしている人からは、パワーをもらって元気になっているとか、気にかけてくれてすごくありがたいという声をもらっています。

山形さん

市長▶裾野市長の髙村です。市制施行50周年を迎え、個人としても市長としても、50年来の先人の皆さんの取り組みに本当に感謝しています。

今回、座談会を開催するにあたり、とにかくチャレンジしている人を招き、市民の皆さんに向けて一緒にチャレンジしようよというメッセージを出してもらいたいと思っています。今日はよろしくお願いします。

楽しいコミュニケーションで
“輪”が広がる

市長▶森川さんは、市民協働によるまちづくり推進協議会の委員を10年務めながら、ファシリテーター

として地域で活躍する中で何か感じたことはありますか。

森川▶ファシリテーターなんて格好いい名前がついていますが、要は話し合いの場における進行役のことで、参加する皆さんが楽しく自由に発言できる場を作ることが一番の役目です。今までの地域での話し合いは、やるかやらないかの結論ばかりに意識が向き、何のためにやっているのかを再確認する場面もなく、前例踏襲的に行事が計画されていることが多いように感じます。話し合いというのは、その場にいるみんなで考え、さまざまな意見を出し合う時間を共有することで、最終的にこうありたいなというあるべき姿が浮き彫りになり、それが目的として理解できることにもつながっていくわけです。

市長▶みんなで考えることで、いい相乗効果が生まれますよね。

森川▶話し合いって面白いなとか、参加したことで新しい知り合いができてうれしいなという思いを実感した人が増えてくると輪が広がっていきますよね。

ファシリテーターとして活動する様子

市長▶協議会に参加させてもらうことがありますが、他の会と比べて自由発言の度合いがすごく高いと思います。自由な話し合いの場や自主的な形での活動がどんどん広がっていくことが一番望ましいことですよね。

森川▶１番のポイントは、いかに話し合いを楽しめるかということです。

田﨑▶話し合いの場が楽しいと、たくさんアイデアが出てきますよね。キラキラタイムが始まったきっかけは、山形さんが入っている市民活動団体が進行する話し合いに出席したことでした。その際に、長泉町で活動しているイベント団体の人と親しくなり、情報交換をするうちに、裾野でもイベントを企画してはどうかという話が出たため、キラキラタイムを開催することになりました。

山形▶私も団体の代表をしていますが、初めてのことに挑戦するときは苦労が多いですよね。

田﨑▶最初は、会場や駐車場の確保、子どもが安全に過ごせる場所を探すのに時間がかかりました。最終的に、和風レストランみよしさんを借りて開催できました。当日の運営は、地域の皆さんがボランティアで協力してくれて無事に成功することができました。

市長▶昨年は何かやろうと思っても、できる状況ではなかったと思います。今年は状況がよくなって、いろんなイベントができればいいですよね。
山形さん、Ringの活動についてですが、先ほどメンバーは10人と伺いましたけれど、何人ぐらいに声をかけたのですか。

山形▶生徒会や地域学という授業を受講している生徒、数十人に声をかけました。反応はそれぞれで、やってみたいと言ってくれる生徒もいれば、お年寄りに電話をしても話が続くか不安という生徒もいました。そこで、先生や地域連携コーディネーターの人と相談を重ね、プレゼンテーションを活動に興味を持ってくれた生徒を集めて行いました。その中で、10人の生徒が手を挙げてくれて一緒に活動することになりました。やっと仲間が見つかったという安心感がありました。

市長▶どのくらいのペースで活動しているのですか。

山形▶今は週１回の活動です。

森川▶そうすると、その10人が決められた日に、各自連絡をするのですね。

山形▶はい。社会福祉協議会の皆さんに協力してもらい、お年寄りの人に希望調査を取り、同意してくれた人に電話か手紙でやり取りをしています。

森川▶電話では、どのようなことを話すのですか。何気ない日常の出来事をちょっと話すとか、そのようなことなのですか。

山形▶テーマは全然決めていなくて、フリートークですが、相手の体調を気遣うことは、初めからみんなできていました。

森川▶自分の本当のおじいちゃん、おばあちゃんみたいな感じで、体調や日常のことを話すのですね。お年寄りの人たちは気分転換というか、息抜きになるのでしょうね。

田﨑▶生徒の皆さんにとっても、コミュニケーションをとる練習になりますね。

山形▶はい。一応、５分と決めてはいるのですが、楽しくてついつい長くなってしまいます。

校内有志団体Ringの活動の様子

森川▶コロナが落ち着けば、面会をしてコミュニケーションをとれるのではないですか。

山形▶裾野高校で放課後カフェというものを開いていて、そこで地域の人やお年寄りの人を呼んで交流することを考えています。

市長▶地区サロンでこの活動を紹介したら、お年寄りの人はみんな喜ぶし、感激すると思いますよ。これからも頑張ってください。

山形▶ありがとうございます。

裾野の魅力の再確認
生徒会での活動

市長▶森川さん、裾野市の魅力は人の温かさだとお話をされていましたが、“もの”の魅力はどうですか。

森川▶山形さんと同じく、水が美味しいところです。一時期、市外で暮らしていたことがありますが、水道水は飲めなかったですね。たまに裾野に戻ってきては、水道水を２リットルのペットボトルに10本以上入れて持ち帰り、それでご飯を炊いたり料理に使ったりしていました。裾野の水は、安心して飲めますよね。

あとは、裾野は時間の流れが緩やかな気がします。毎日違う表情を見せる富士山や農業をやっている人がトラクターを運転している風景が好きです。

市長▶田舎的な部分が残っているというところがあるのかもしれないですね。

田﨑さんは、お子さんが幼稚園に通われていたときにPTA会長をされていたそうですね。地域の人との関わりはありましたか。

田﨑▶娘が年長のときに富岡第二幼稚園のPTA会長を務めました。地域の人たちとの触れ合いが欲しいなと思い、例年より大きな規模で夏祭りをさせてもらいました。幼稚園の近所の人たちや富岡第二小学校の児童がたくさん来てくれて、園の先生や小学校のスクール・サポーターも一緒に盛り上げてくれました。あと、下和田区の人が野菜やバザー品をたくさん用意してくれたおかげで、今までにないぐらいの収益がありました。そのお金で、園児におもちゃやクリスマスパーティーで食べるケーキ、オードブルを用意することができ、本当に周りの人たちの優しさを実感しました。

田﨑さん

市長▶最近の裾野高校の生徒の皆さんは、Ringを始めボランティア部の生徒など、多くの人が活躍されていますね。学校生活を送る上で意識していることはありますか。

山形▶私は教師を目指しているので、高校での経験を将来伝えるために、まず先頭に立って裾野高校をよりよくしようという思いから生徒会に入りました。市内でICTを活用し地域課題の解決に取り組む団体「Code for SUSONO」の皆さんと一緒に通学路マップを作ったり、ユニセフ学校募金をしたりして、徐々に生徒会の活動の幅を広げていきました。

市長▶地域活動に積極的な生徒が１人でも２人でも増えていってくれると、地域とのつながりがまた増えてきますよね。

“まちづくり”と“ひとづくり”
これからの裾野を考える

市長▶これからのまちづくりにご意見はありますか。市に希望することなどをお話しください。

森川▶裾野の５地区がそれぞれの特徴を見いだし、持ち味を生かした展開ができれば面白いなと思っています。

市長▶まちづくり推進協議会で、地域づくりクリエイターを設置する協議を進めていると聞いています。どこまで協議が進んでいますか。

森川▶地域づくりクリエイターは、区長と連携して、区民の皆さんが自分の地区の課題が何であるかに気付き、その課題解決に向けたさまざまな取り組みを行っていけるようサポートする存在です。今後、まずは一部の地区をモデルケースにしながら展開していきたいです。

市長▶地域の事情に応じて行政も一緒に考えていく必要がありますね。
田﨑さんは、子育て世代の代表として、まちづくりへの希望などはありますか。

田﨑▶私の住んでいる呼子区は、富岡中学校が少し遠いです。そのため、周りのお母さんたちとスクールバスが欲しいという話をよくします。
それから、キラキラタイムでアンケートを取ると、大型商業施設が欲しいという意見が多いです。

高村市長

市長▶商業施設に関してはビジネスなので、マーケティングをしたときの結果次第だと思います。スクールバスやお年寄りの移動手段は、しっかり考えていかなければならないと思っています。
山形さんは、不便に感じているようなものはありますか。

山形▶私の家の近くは街灯が少なくて、少し怖いなと思うときがあります。外を散歩したりランニングしたりするときに、もっと街灯があったらいいなと思います。
あとは、やっぱり商業施設がほしいですね。ですが、裾野市は富士山があって静かなまちです。いい言い方で言うと、のどかな田舎なのです。だから、裾野らしさというか、田舎らしさもまたいいのかなと思います。

次代を担う子どもたちの未来

市長▶これからの子どもたちにどのような環境で育ってほしいとか、どうなってほしいというような思いはありますか。

森川さん

森川▶まず、大人自身が自分の住む地区で大切なもの、守りたいものをきちんと見つけて、それを子どもたちに教えていくことが重要だと考えます。そして、その子どもたちが成長し大人になったときに、やっぱり裾野市っていいなと思ってくれたらうれしいですね。

田﨑▶私がやっているような、子育てイベントを企画・運営する団体がもっと増えてくれたらいいなと思います。裾野を盛り上げていくような、子育てに優しい地域に発展していけたらいいなと思います。

市長▶そういう団体が増えることによって、住みやすいまちになってくるのでしょうね。団体設立の相談を受けることはありますか。

田﨑▶受けることもあります。キラキラタイムもやりながら、活動の輪を広げていきたいです。

市長▶山形さんは、どのような教師になりたいと考えていますか。

山形▶２つ目標があり、１つ目は生徒に学ぶことの楽しさを伝えたいと思っています。そのために、わくわくさせられるような授業ができるようになりたいです。２つ目は、自分が高校でやってきた経験や活動で学んだことを生徒に還元していきたいです。高校３年間で生徒会長や茶道部部長を務めたり、英語スピーチコンテストや弁論大会に出て受賞したりしました。何かに挑戦して、成功体験があると自信になるので、生徒の挑戦を応援できる教師になりたいです。

市長▶ぜひ、高校生活で培ったことを子どもたちや生徒たちに教えてあげてください。応援しています。

田﨑▶私は向田小学校で支援員をやっているのですが、教師を目指す人がすごく少ないそうです。子どもたちのことを考えられる若い人が増えたらいいなと本当に思います。

山形▶教師になったら、田﨑さんや森川さんたちと連携して、何か子どもたちの新しい交流の場づくりや世代間を超えた交流をやりたいです。子どもたちの成長や学びにもつながるので、地域と積極的に関わるような仕掛けをしていきたいと思っています。

未来に向けて夢や挑戦

市長▶最後に、今後の目標やこれから挑戦したいことなどがあればお話しください。

森川▶建築を通じて地域の皆さんに恩返しができればという思いがあります。
また、協議会に携わっていることから、地域の皆さんと一緒に熱量の感じられる地域づくりに取り組んでいきたいという思いが強いです。

田﨑▶昨年はキラキラタイムが開催できなかったので、今年はコロナ禍が少しでも落ち着いて、イベントを安全に開催できることを目標に頑張っていきたいなと思っています。

山形▶私はもうすぐ卒業してしまうので、後輩たちを育てて、Ringの「声のチカラ」プロジェクトが裾野高校の伝統になるよう残していきたいです。
また、最近は地域で活躍している団体の活動に参加させてもらっているので、これからも交流を続けていきたいなと思います。

市長▶冒頭も申し上げましたが、裾野市のここまでの発展は、この50年以上前の先人から受け継いだものです。市制施行50周年を迎えて、ここから先は、山形さんや田﨑さん、森川さんが話したような市民の皆さんの挑戦をサポートし、ともに活動していく行政でなければいけないと思います。皆さんの挑戦を応援する環境を整え、これからも一緒に頑張りたいと思います。ありがとうございました。

年頭あいさつ

市制施行50周年を祝して

裾野市長
髙村 謙二

明けましておめでとうございます。輝かしい希望に満ちた新春を健やかにお迎えのことと心からお喜び申し上げます。

今年の干支「丑（うし）年」は、先を急がず一歩一歩着実に物事を進めることが大切な年と言われています。いまだ新型コロナウイルス感染症は収束の兆しが見えず、まだまだ耐え忍ぶ期間が続くかと思います。しかしながら、地道な感染防止対策と新しい生活様式の実践を続けることこそが、再生への確実な道筋であると確信しております。

さて、裾野市は年明けの１月１日に50歳の誕生日を迎えました。今年は、様々な事業に市制施行50周年の冠をつけ、市民の皆様とともにこの記念すべき節目をお祝いしたいと考えています。これまでの裾野市の歩みを振り返り、先人たちが築き上げてきた功績による今日の発展に感謝するとともに、未来に向けてさらなる飛躍を期する年としたいと思います。

また裾野市では、昨年末に、新たなまちづくりの指針「第５次裾野市総合計画」を策定いたしました。この新しい総合計画では、富士山の裾野に広がる豊かな自然のもと、地域に誇りを持つ市民や地域経済をけん引する企業等とともに、未来志向で協働・連携してまちづくりを進めることによって、裾野市らしい「田園」と「未来都市」が今（うるわ）しく調和する「みんなが誇る豊かな田園未来都市すその」の実現を目指します。

市内で建設が予定されている未来技術の実証都市「ウーブン・シティ」プロジェクトは、富士山にちなんで今年の２月23日に着工という発表がありました。行政としましては、このプロジェクトを閉じたものとせず、その波及効果が市域にも広がり、市民の皆様が豊かで幸せな生活を実感できるよう、SDCC構想に賛同するパートナーとともに先端技術による地域の課題解決に取り組んでまいります。

結びに、皆様のご健勝ご多幸と新たな時代に向けて大きな飛躍の年になりますことを心から祈念申し上げ、年頭のあいさつといたします。